

U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 マインド[®]の予想を上回る改善も消費の一段の加速を示唆せず
(06年3月C B消費者信頼感指数)

発表日: 06年3月28日(火)

~ 期待の改善と現状の景気・雇用環境の良好さを確認 ~

(No. UI - 224)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数				雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
		期待指数	現状指数		充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅		期待	現状
05/03	103.0	93.7	117.0		21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	113.8		20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	117.8		22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	106.2	96.4	120.8		22.5	22.5	19.5	9.0	6.6	3.6	96.0	85.0	113.2
05/07	103.6	93.2	119.3		22.9	23.8	17.9	9.5	7.6	3.8	96.5	85.5	113.5
05/08	105.5	93.3	123.8		23.6	23.1	18.7	10.0	6.2	3.5	89.1	76.9	108.2
05/09	87.5	72.3	110.4		20.7	25.0	15.4	19.6	5.8	3.4	76.9	63.3	98.1
05/10	85.2	70.1	107.8		20.7	25.3	14.1	18.5	6.4	2.8	74.2	63.2	91.2
05/11	98.3	88.4	113.2		21.1	23.6	19.0	11.5	5.0	3.0	81.6	69.6	100.2
05/12	103.8	92.6	120.7		23.3	22.5	18.4	9.1	6.1	2.8	91.5	80.2	109.1
06/01	106.8	92.1	128.8		27.0	20.3	17.9	10.5	6.7	3.0	91.2	78.9	110.3
06/02	102.7	84.2	130.3		27.4	20.2	16.2	10.9	7.1	3.4	86.7	74.5	105.6
06/03	107.2	89.9	133.3		28.4	20.7	18.0	9.9	5.7	4.0	86.7	74.2	106.2

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

107.2 と前月比4.5 ポイント上昇し市場 予想を上回った

06年3月の消費者信頼感指数(C Bベース)は、107.2と2月の102.7(速報の101.7から上方改定)から4.5ポイント上昇し2002年5月以来の高い水準となった。現状指数が前月比+3.3ポイント上昇し期待指数が同+5.7ポイント上昇したことで、消費者信頼感指数は市場予想の102.0を大幅に上回った。ただし、変化率、水準ともに現在の個人消費の拡大ペースの変化を示すものではない。

期待指数は、原油価格の落ち着き、住宅価格の上昇等を背景に、景気、雇用の先行きに対する見方が改善し上昇した。現状指数はガソリン、天然ガス等エネルギー価格が落ち着くもと、景気・雇用の堅調を示す経済指標の発表などによって、景気、雇用に対する楽観的な見方が強まり上昇した。

3月の小売売上高は2 月とほぼ同ペース

マインドの基調は安定しており、個人消費の堅調持続と整合性が取れている。3月のマインド調査期間と同時期の消費をみると、週間ベースの小売売上高は3月第1~4週平均で2月対比+1.0%と2月の前月比+1.1%とほぼ同率の伸びとなっている。天然ガス、ヒーティングオイル、原油価格のピークからの下落、雇用・所得の拡大、株価の上昇等を背景に小売売上高が拡大している。一方、3月の自動車販売は2月と同程度の水準を維持している模様である。このように、3月の個人消費はマインドが改善する中で総じて堅調が持続していると判断される。

現状の「景気」、「雇用」 が改善

現状・期待判断それぞれの変化要因に関しては、現状判断では現在の景気に対する楽観的な見方が強まり(現在の景気に対する見方の「良い」-「悪い」が+13.6と前月の

+11.0からプラス幅拡大)、現在の雇用環境に対する楽観的な見方が強い状態が続いた(現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が+7.7と前月の+7.2からプラス幅拡大)。

期待では「景気」、「雇用」が改善、「所得」がほぼ変わらず

期待指数では、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まった(6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+8.1と前月の+5.3からプラス幅が拡大)。さらに、雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まった(6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲2.7と前月の▲6.5からマイナス幅が縮小)。一方、6ヵ月後の収入については「増加する」-「減少する」が+9.3と前月の+9.4からプラス幅が小幅ながら縮小しており、先行きの所得に対する楽観的な見方が弱まった。

購入計画は家電消費の堅調を示唆し、住宅購入計画の下げ止まりを示す

同時に実施された関連調査である「6ヵ月以内の購入計画」の前月からの変化をみると、「住宅購入計画」が前月から上昇しており住宅購入需要の持ち直しが示唆されている。「家電購入計画」は前月から上昇し高い水準を維持していることから、2006年4～6月期にかけて住宅関連の耐久財消費は堅調に推移すると見込まれる。一方、「自動車購入計画」が前月から低下し水準が低いことから自動車販売を押し上げるには積極的なインセンティブが必要な状況に変化はない。自動車販売は、再び価格の引き下げやキャッシュバックの拡大を始めており目先底堅く推移すると予想される。

株価の楽観的な見通しが強まる

景気の先行きに対する楽観的な見方が強まったこと等によって、株価に対する楽観的な見方が強まった(株価に対する見方である「上昇する」-「下落する」のプラス幅が拡大)、個人資金の投信等への流入が拡大する可能性が高いことを示している。

インフレに関する調査では、CPIコアの安定等を受けインフレ見通しが4.8と昨年9月の6.4をピークに昨年7月以来の水準まで低下しており、消費者のインフレ期待が徐々に後退している。

消費者マインドは、目先現状水準で安定的に推移

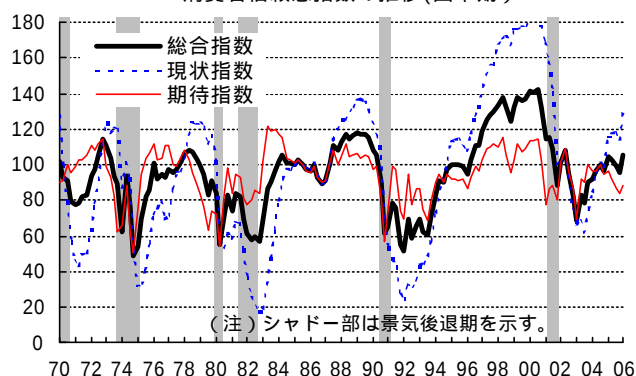
エネルギー価格に関しては、原油価格がテロ懸念、ナイジェリア、イラン情勢等によって60ドル台前半で推移している。今後も、地政学的なリスクに加えて、世界的に景気が堅調さを増す中で需給の逼迫感は変わらず、ガソリン需要次第では一段と上昇する可能性がある。エネルギー価格が高止まりすれば、実際に景気に与える影響が小さいにも関わらず景気の先行きに対する不安感が強まりマインドを悪化させる可能性がある。

一方、雇用環境をみると、投入コストの上昇が続く中、一部の企業ではコスト削減のため、レイオフや採用の抑制を続けると予想される一方で、雇用に先行する景気が2003年4～6月期から2006年1～3月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大しているとみられること、2006年1～3月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画などで採用拡大が示唆されていることから、米国全体では企業の採用意欲は強い状態にある。さらに、雇用の大部分を占める中小企業の景況感が1月にかけて改善し、雇用計画は高い水準を維持している。これらのことから、雇用者数が前期比+0.3%～+0.5%のトレンドを維持すると予想されるため、消費者マインドは現状水準で安定的に推移すると見込まれる。

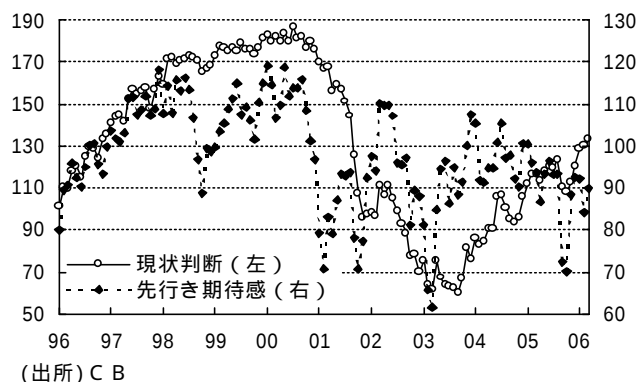
以上のような消費を取巻く環境のもと、06年1～3月期の個人消費は05年10～12月期の前期比年率+1.2%から同+5%程度に加速する公算が大きい。4～6月期には雇

用・所得の拡大が続くものの、暖冬効果の剥落、エネルギー価格の上昇によって前期比
年率 + 2 % 台に鈍化すると予想される。

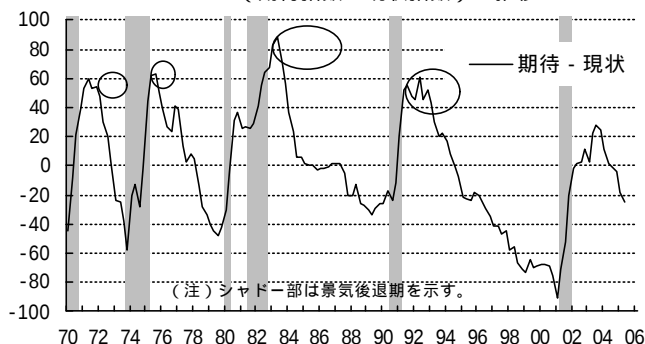
消費者信頼感指数の推移 (四半期)



消費者信頼感指数の推移

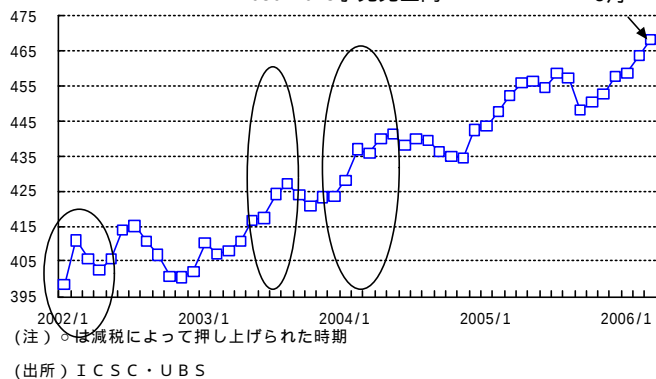


(期待指数 - 現状指数) の推移

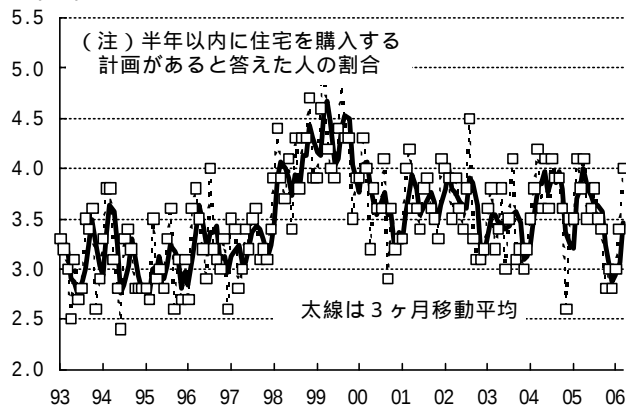


ICSC・UBS小売売上高

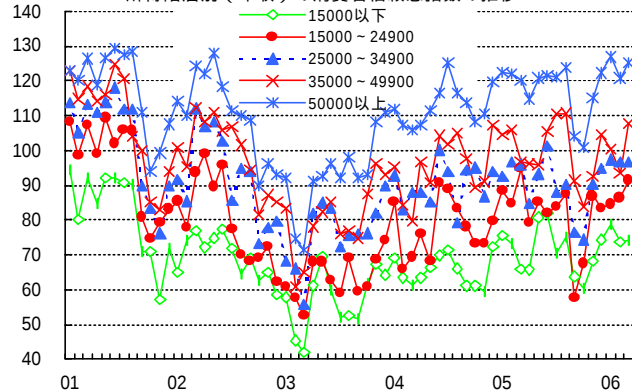
3月



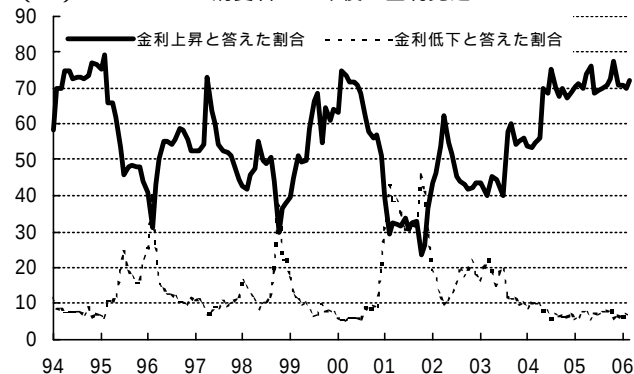
(%) 住宅購入計画比率の推移



所得階層別 (年収) の消費者信頼感指数の推移



(%) 消費者の1年後の金利見通し



(%) 消費者の1年後の株価見通し

